

白 門祭初日。友達のKとY(文学部1年)と一緒に足早に9

号館(クレセントホール)に向かっていた。ソニンのライブを見るためだ。

「なんだかこっちまで緊張してくるわ」

4時前に会場入りした。そして、場内は暗くなり、歓声とともに始まった。

真っ白なコー  
トで勢いよく出  
てきたかと思う

中大ライブ・ノットロリネス：  
ソニンのビートに酔いつれて

大学サイコー、  
です！  
ソニンコール

や否や、激しいビートの「東京ミッドナイトロリネス」を歌い上げた。会場は総立ち。実はソニンの歌をほとんど知らない私たち3人組。はじめはおどおどしていたが、みようみまねでリズムを取った。

一番手本になったのは、目の前にいた男性。真っ黒なぼさぼさ頭に白黒のタータンチェック。水を得た魚のように、全ての曲において完璧といえる手の動きとかけ声を見せてくれた。

MCでは、なんとヒルトップ4階の「四季」のことに触れた。

「大学生が昼間から座敷でごはんって……。すごいですよ。うらやましい限りですよ」

「私、そこで働いてました〜」  
思わず叫んでしまった。

ライブも終わりに近くなってきた。最後の挨拶で、  
「今日は本当にありがとう。中央

と拍手がやまない客席。一体化した昂揚感、余韻なお冷めやらず……。  
夢見ごちの帰り道、Kが提案した。「来年もライブに行こうよ」  
ふたりは迷わず頷いた。これから、3人の恒例行事になりそうだ。

聞けば、去年は「hiro伝説」、ソニンときて、来年は……？「生協」のセンス悪くないわよ、とエールを送っておこうかしら。

(韓)

## 8

号館の大スクリーンを通して観衆が見守る中、ついにカウントダウンが始まった。「5、4、3、2、1、スタート！」——11月1日午後2時50分。

合図と同時に最初の一枚がパタリ、と倒れた。途端に、パタパタパタパタ……とドミノの列がなだれる波になった。「パタ、パタ」の音がつくるリズム、その加速感。会場

の第2体育館では、参加者やスタッフがわあっ

と歓声をあげて、倒れていくドミノを追って走りだした。

55000個の歓声  
実況中継・大ドミノ大会

ラしながらも、  
無事に立ったド  
ミノにほっとた

その光景を眺めながら、実行委員の入山茂さん(文1年)は興奮と不安の入り混じった思いで、この決して楽ではなかった「5万5千個」の道のりを振り返っていた。

白門祭実行委員として「大ドミノ

大会」を企画したものの、スタッフ・参加者ともにドミノ経験者はゼロ。日本ドミノ協会からドミノ

を借りて、並べ方などを勉強しながら自分たちだけで図案を作った。しかし実際に並べ始めると、一見簡単そうに見えるその作業が実は精神的にも体力的にもかなりハードであることを実感した。

ドミノを慎重に床に立たせて、そっと指を離す。緊張の一瞬。思わず震えてしまう指先が、連立するド

ミノに当たってしまわないかとハラハラしながらも、  
無事に立ったド  
ミノにほっとた

め息をつきかけて慌てて口をつぐむ。ここではうっかりため息さえつけない。どんな拍子でドミノが倒れるかわからないからだ。

当然、スタッフはそろりそろりと足音を忍ばせて歩かなければならぬ。予想以上の神経戦である。

午後3時。約10時間かけて2日ばかりで制作したドミノの最後の一枚、5万5千個目が倒れ、音が止んだ瞬間、入山さんの口から安堵のため息が漏れた。

(雪)



今年も10月31日〜11月3日の白門祭が無事終了した。中には「おっチャイナドレスのお姉さん

……って男かよ!」と洗礼を受けた1年生の方もいらっしやったのではないだろうか。そんな酸っぱいドラマがたくさん生まれた(であろう)ベデ下に、わたくし記者は意気揚々、潜入を試みた。

今年は北海道で地震があったので、皆さんチャリティー的に北海道のじゃがいもを買ったのか!?

「じゃがバター」の売店が異様に多かつたような。そんな中「ネイルアート」350円ナリが初お目見えしていた。しかも結構な腕前。あの売店はサークルではなく、総合政策学部有志による売店だったそう、さすがにマルチな学部だな……。

「教育が煮る1億の豚」発見! 売りは豚汁。去年は「教育が焼く1億の鳥」だった気がするが。

しかしやはり白門祭は各サークルの個性の見せ所! 今年ならでは「阪神パイガス」を発見。これは

300円にて部員を指名し、

その人にパイをぶつけるという中大名物?パイ投げである。売り文句は「焼

きソバやタコ焼きなら他でも買え

るけど、思い出はここでしか買えない!」だそう。トイレに頭を洗いに消えた男性の背中には哀愁が漂っていたことを私は見逃さなかつたけれど。チーン。噂によると「下半身

タイガース」なるものもあつたそうだが、あくまで

噂ということだ

さて、ベデ下ではないのだが記者にはどうしても行きたい所があつた。それは「呪怨の館」。とどのつまりお化け屋敷企画なのだが、学祭でのお化け屋敷は初体験なので

すよ、わくわく……。意気込んで

会場の7号館へ行く。「お一人ですか?」と聞かれ、後ろのカップルをにらみつつ「……ハイ」と答える。いいの・取材だもんねつ、とす

ねつつも一歩入った途端に部屋はも



う真っ暗。たまに赤いう

イトがある以外はまさに

闇の中、ダンボールで仕

切られた室内を手探りで

歩かなくてはならないのだ。これは

怖いヨ。下手な遊園地のお化け屋敷

よりもよっぽどである。そろそろと

進むと「わあっ」と部員たちが脅か

してくる。記者が「わっ」と驚く後

ろから「きゃっ!」「びっくりした

な」と先ほどのカップルの声があ

る。……ううっ、

一人で悲鳴を

あげても寂し

いから早く出よう、と思いつつも途

中何度も行き止まりにはまってびび

りながら、何とか引き上げてきた。

教訓、お化け屋敷は一人で入らない

ようにしよう、寂しいから……。

外に出て再びベデ下を歩いている

と、何やらにぎやかだと思つたらテ

ニスサークル「わかもの」が、食堂

前の一角でテニス試し打ちを100円で

売り出していた。なぜか一緒に杏仁

豆腐も。さすがテニスサークル、と

そこで記者は気付いた。先ほどの

「呪怨の館」はローンテニス同好会

「阪神パイガス」はFITという、

どちらもテニスサークルの出し物

であつたことに! そして「わかも

の」の実際のテニス体験と、テニス

サークルは数ある売店の中でもひと

きわ光つた企画であつた。これはや

はり、看板のすみに「後期募集もし

てます」と書いてあることに関係が

あるのだろうか? これまたテニス

サークルa iの腕相撲勝ち抜きで賞

品ゲット!の売店にも、看板に「後

期募集中、1年生大歓迎!」と書いて

あつた。何となく、同じくこのベ

デ下で勃発した4月の「新歓」とい

う戦争を思い出してしまう。

白門祭、それはただの祭りではな

く、裏で息詰まる攻防が繰り広げら

れる戦争でもあるのだ。そして、今

年もいつも通りのにぎわいを見せ、

盛況のうちに白門祭は幕を閉じた。

各サークルの後期部員ゲット数はわ

からずじまいではあるけれども。

(鬼)

せ

めてお役に立ちたくて、  
「何か仕事ありますか？」

そう聞く僕に、

「じゃあ、パンフレットを配って  
ください、笑顔でね」

彼女は笑顔で言っ、パンフレッ  
トを手渡した。ここぞとばかりに来  
場者に声をかける僕に、彼女が再び  
声をかけた。

「笑顔でね」

と、こぼれそう

な笑顔で。

「理工白門祭のヒト」本番  
センターMEGUMI

本誌前号（「秋季特別号」）で紹  
介した「白門祭のヒト」——理工白  
門祭実行委員長の加藤由紀子さんだ。

最終日の後楽園は、あいにくの  
雨。最後の大イベント、MEGUMI  
トークショーに向けて、彼女は少  
しピリピリしている。

トークショーは立ち見が出るほ  
どの大盛況である。記者はチケット  
を入手できずに入れなかった。無料  
だったのに！

1時間後、熱狂の場所に行つてみ  
ると、白門祭のフィナーレを迎えよ  
うとしていた。今年から各団体の人  
気投票による優秀企画の表彰式を行

うことになり、その表彰式。白門祭  
最後の企画、彼女にとつても最後の  
仕事である。

彼女は司会として舞台上に立ってい  
た。「最優秀企画の発表です！」

照明が落ちてドラマのロール音。  
そして、「最優秀企画はJAZZ研  
さんのJAZZ喫茶です」。

面々歓喜する中、彼女はその喜び

を何倍にもす  
る一言を言い  
放った。

「それでは、この方に賞金を渡し  
てもらいましょう」

目線の先には——あのMEGUMI  
Iがいた。場内のボルテージは最高潮。  
MEGUMIをプレゼンターにする  
とは……これも彼女のニクイ演出。

こうして「彼女の白門祭」は幕を  
閉じた。メッセージを伝えよう。

「また、来年も理工白門祭をよろ  
しくお願いします」

会場の、彼女が立っていたスポッ  
トに、雨が降ったような

跡があった。内と外を走  
り回った勳章のような跡  
が。  
(吹)

寒

くなつてくると、恋しいのが  
お風呂ですよ。文学部のK  
さんもお風呂好きの女の子。上京し

て一人暮らしをするとき、部屋選  
びの最大条件は「お風呂とトイレが  
別であること」！家賃・距離など

他の条件を譲歩した代わりに、Kさ  
んは一人暮らしなれど忙しい時以外  
は必ずゆつくりとお風呂につかって  
バスタイムを満喫しているのであつ

た。

そんなKさん

が最近凝つてい  
るのが変わった

お風呂で星を見た……  
正しい入浴剤の選び方

入浴剤。温泉の素や薬用のものだけ  
でなく、泡風呂の素をはじめお湯が  
ゼリー状になるものやお湯にとろみ  
がつくものなど、いろいろと出てい  
るのだ。Kさんまずはゼリー状風呂  
にチャレンジして、いたく感動した

のだが、ゼリー状入浴剤は1つ12  
00円と懐に響くし、実はゼリー風  
呂を楽しんだ後、お湯を液状に戻す

ための溶剤を間違つて流  
してしまい、ひどい目に  
あつてすっかりトラウマ  
が出来上がってしまった

いた。

しかしあくる日、トラウマ返上ど  
ばかりに今度はとろみ状入浴剤にト  
ライしてみることにした。お湯をた  
めてからサラサラと入浴剤を入れて、  
手でかき混ぜてみると……「スゴイ、  
本当にとろみが！」。早速準備をし  
て、うきうきと浴槽に入る……とそ  
の時つ。

ツルツ（浴槽ですべった音）、ゴ  
ン！（壁に頭が直撃した音）……

……

ホントに星が見  
えたわよ、とK  
さんは言う。実

はとろみ状入浴剤の注意書きに「浴  
槽が大変すべりやすくなるので注意  
して下さい」と書いてあったのだが  
……浮かれて目には入らなかったの  
だ。

またお風呂で星を、というトラウ  
マ・ダブルで、Kさんは今ではもっ  
ぱら『バス○マンシリーズ』を愛用  
しているそうだ。この先、3つも4

つもトラウマができないように、彼  
女が冬場に「クールタイプ」の入浴  
剤を使うことがないよう祈るのみで  
ある……。  
(猫)



ふ

さふさ白髪頭、ぼっちゃりした頬、色彩めがね。肌はしみ

病院を紹介してくれたりとお世話になってる。

がほとんどなく、白くて美しい。若い人と張っちゃうくらい。それをほめると、顔赤らめて否定されたが。

ピイちゃんは透きとおるようなうすいブルーの羽が自慢の雌のインコである。おばあちゃんの名



でマンションか、と言わないで)。みぞれまじりの寒い冬の日だった。お

続けて言った。「今のわかい人は危機感がない」と。

めると、顔赤らめて否定されたが。

は末淵さん。気安く、「スエブチさん」と呼ぶこともある。

ばあちゃんにSOSを伝えると、マンション内ではよくあることらしく

「管理人さんの仕事はごみの管理、マンションの清掃、その他もろもろ。足もふらつき、腰をいためているお

そしておかしくてたまらないというふうに笑った。「お風呂あがりにベ

スイエブチさんは16年前にこのマンションの管理人になった。いま77歳

（そんなマンションです）、手慣れた様子でテキパキと対応された。しかし、買ってきたサビ落としの「ク

除をする。絶対に手を抜かない。「私は1人だから、がんばらなくちゃ」。それが口グセになっていた。市の高齢者用の住宅は希望者が多すぎて、

驚くときは大きな目で右手を右頬にあてて、「あら〜」と、思ったことが顔に出ちゃう。まるで同年代の人と話しているような気にさせる――

だから、61歳のころ越してきたというわけだ。

レ556」を鍵穴にさしこんだ拍子に、細いノズルの先端がポキッと折れて、使

年齢に当たらないそうだ。そんなスエブチさんはこんど飛行機に乗って福岡にお出かけする。同じ高齢のいとこに会いに行くそうだ。病院から鼓膜がやぶれるのを防止する耳栓をもらい、準備万端だ。

首にはスカーフを巻き、たいていは割烹着を着ている。私がこのマンションに帰りつく夜10時頃、1階のフロアでたまに出会う。おばあちゃん

おばあちゃんが何をしているのかといえは、もちろんぼけーと椅子に座っているわけではない。スエブチ

「これだから日本は戦争に負けるんだ!!」

親の死に目に会えなかった。「いとこにはどうしても会っておきたくてね」と、不自由な体を無理しての旅だ。

おばあちゃんとの関係は住居人と管理人さん。私がここに越

ごみが入った、大きなポリバケツをヨイコラシヨと表に運び出し、それから、一休みしているというわけだ。住人がその日出してもよいごみ以外

「日本は資源がないからものづくりで勝負しなきゃだめだったのよ」

「これが私にとって最後の旅行になるわ」

てきて1年半、安いスーパを教

ある日、私のドアの鍵がさびついた、鍵がかけられなくなった（それ

「感覚」みたいな私だったが、スエブチさんが戦前生まれであることを改めて感じた。

おばあちゃんは遠い目をして言った。

てもらったり、風邪をひき、どこの病院に行けばいいかわからない私に

おばあちゃんは何をしてくれているのかといえは、もちろんぼけーと椅子に座っているわけではない。スエブチ

「感覚」みたいな私だったが、スエブチさんが戦前生まれであることを改めて感じた。

おばあちゃんは遠い目をして言った。

# 夏

休みを利用して初めての海外旅行に行った男がいる。

彼は一人で旅行計画を立て、独りで旅に発った。なぜたった独りで行ったのだろうか？

「日本での生活は利便性の中で、人との関係が薄いように思う。環境を変えれば、失った人間性に出会えるかもしれない」

と語る彼は、この旅の初めに課題を設けた。心を引き締め、旅に面白味を増やすためだ。

どんなとき

も相手と接した

あとは「笑顔」、

感謝の心を忘れることなく「笑顔」、これを実践することだった。

飛行機の中でサービスをするフライトアテンダントにも、電車の中で隣に座った老人にも、売店の女性にも、通りすがりの見知らぬ外国の旅人にさえも笑顔で接した。

不思議なことに、こちらが笑顔で接すると相手も笑顔を返してくれる。会ったこともなく肌の色も人種

も違うのに笑顔を見せてくれる。彼は、嬉しくなった。と同時に、

「なぜ笑顔を見るだけでこんなに嬉しい気持ちになるのだろうか？」

彼の旅行中の課題がまた一つ増えた。移動中、観光中、ベッドの中でさえもひたすら考えた。しかし答えは見つからなかった。

帰国した彼に答えが見つかったか聞いてみると、飛び切りの笑顔で、「わからないことがわかったよ。

## 「皮むけた海外単独行

### 「笑顔」は世界の共通言語

結局わからないままさ。でも楽しい旅だった。

たくさんの人としゃべった。たくさん経験もした。そういう意味で一つの目の課題はクリアしたよ。人の温かさに触れる事ができたんだ」  
彼は皮むけて帰ってきたようだ。

僕へのお土産にと差

し出した彼の右の手のひらには小さい亀の置物がのつていた。

(吹)

# 後

期が始まったばかりの、ある日。法学部のA教授とそのゼミ生

らは、授業を終えてエレベーターに乗りこんだ。

内装は明るいオフホワイトの、夏期休暇中に新しくなったエレベーターである。「それに大きな鏡もついたしね！」と、女の子たちにもおむね好評（他学部もそうみたい）。

『1階でございます』といきなりの声に、

「おおっ！音声案内まで！」と、

ちよつとした感動のさざ波である。

そんな中で、A教授が呟いた。「そうか……このエレベーターにはカメラは付いてないんだなあ」

「えっ、カメラですか?!」  
「2号館のエレベーターには付いているんだよね。監視カメラとモニターがさ」

「へえ、やつぱりセキュリティ上の都合でしようかね? 不審者か

ら先生方を守るっていう……」。ゼミ生M子さんのもつともらしい言葉に、他の学生もなるほどと一斉に頷いた。

「いや、ちよつと違うんじゃない?」とやんわりと否定したのはA教授である。そしてご自慢の口ひげに手をやりながら、

「うん、やつぱりアレだね。教授同士の殴り合いを防止するためなんじゃない?」  
『このやる、俺の論文にケチつ

## 新装・学部エレベーター カメラ付きの、ホントのワケ

の論文にケチつ

けたな!』なにを、このお!』って、ボカスカやるの。ネクタイとかつかんで(笑)。

って、教授、そんな。さも満足げに微笑みながら話されると、どこまで本気か冗談なのかわからないですけど……。

(雪)



# エ

コ・アート「よみがえる樹々の命展」が昭和記念公園（立

川市・昭島市）で、11月29日まで約1カ月間繰り広げられた。

「お父さん、あれミッキー？」

「ミッキーじゃないよ！クマだ

ろ！」

る。

「お父さんが正解。シンボルの

ろ！」

美術大、東京農業大の学生約80人。

約340人と、東京造形大、武蔵野

## 「ティディベア」の6カ月

### 「樹々の命展」に中大華道会も参加

生、120度

回転するクマちゃんの首をみて大喜びする子供たち……。

中大華道会は月3回生け花を教えに来てくれる山田榮水先生のチーム（主婦、社会人ら計25人）に参加した。

「樹々の命展」

は独特である。公園内の剪定で出た不要な枝、台風で出た倒木を利用し、それぞれの



作品を作る。7回目のことしては同公園の20周年を記念し一般募集の約20作品、草月流家元・勅使河原茜さんの初作品など約50作品が紅葉の広場に並んだ。

公開前から、ティディベア製作の

まわりは大変な人気だった。携帯

カメラを向

ける女子高

生、120度

諸説あるけれど、「ティディ」は、アメリカ第26代大統領セオドア・ルーズベルトの愛称、とするのがほぼ定説。物語的にもよくて……。

《1902年の秋、ルーズベルト大統領は熊狩りに行き、瀕死の小グマに出くわしました。ところが、大統領は撃ち殺すことを拒み、小グマを助けました……》（リンダ・マリンズ著『The TEDDY BEAR MEN』）

「ティディベアは世界万人に愛されたクマ。私たちの作品も公園に来た人々に愛されるといわね」という先生の言葉どおり、期間中も笑顔の輪ができた。

ティディベア…製作するのも喜び=昭和記念公園

